

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

福岡県筑後地区におけるICTを活用した肝炎診療の試み

研究分担者：鳥村 拓司 久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門 教授  
研究協力者：井出 達也 久留米大学医療センター 教授

**研究要旨：**【背景】近年、地域において医療連携を強化するために、インターネット回線を用いた連携システムが構築されている。いわゆるICT(Information and Communication Technology)である。今回肝炎診療の効率化や充実を図るため、この回線を用いた肝炎診療の構築が可能か検討することを目的とした。【方法】福岡県筑後地区には、「アザレアネット」という愛称の、インターネット回線を利用したID-Linkという地域医療連携システムが存在する。アザレアネットは、情報を開示する病院（情報開示施設）と情報を閲覧する診療所（情報閲覧施設）があり、それを繋ぐID-Linkサービスセンターがある。患者に同意を得る（主に情報閲覧施設にて）と、情報閲覧施設は自院のパソコンから情報開示施設の患者情報を閲覧することができる。主に検査結果、投薬状況、カルテなどである。【結果】情報開示施設は7医療機関であり、情報閲覧施設は94医療機関であった。情報閲覧施設のメリットとしては、データを直接閲覧したり、医師の記録まで閲覧できるので、専門医の考え方などを学ぶことができる。情報開示施設のメリットとしては、情報診療提供書などを省略することができる、また情報開示施設同士であれば双方向で閲覧ができるなどである。肝炎診療は、診断、治療方針決定、経過観察を定期的に行う疾患が多く、このシステムを使うメリットがあるものと思われた。

【結語】アザレアネットは、筑後地区で医療連携ネットワークを形成しており、それを肝炎診療に用いることは効率的かつ充実を図る上で期待できるものと思われた。

A. 研究目的

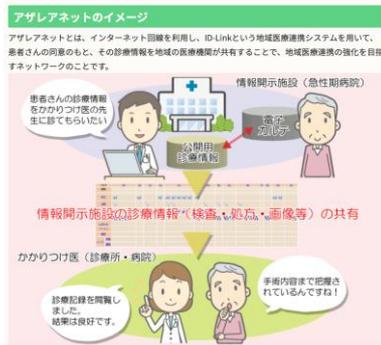
近年、地域医療連携を強化するために、日本各地においてインターネット回線を用いた連携システムが構築されている。いわゆるICT(Information and Communication Technology)である。しかしながらその利用の状況は不透明で、よく利用している医師は少ないように思われる。

このようなネットワークを十分利用すれば、ネットワークの利便性以外にも、無駄な印刷物が減ったり、専門医のカルテ閲覧などで勉強にもなるなどのメリットがあると思われる。今回肝炎診療の効率化や充実を図るため、この回線の利用状況や問題点を把握し、この回線を用いた肝炎診療の構築が可能か検討することを目的とした。

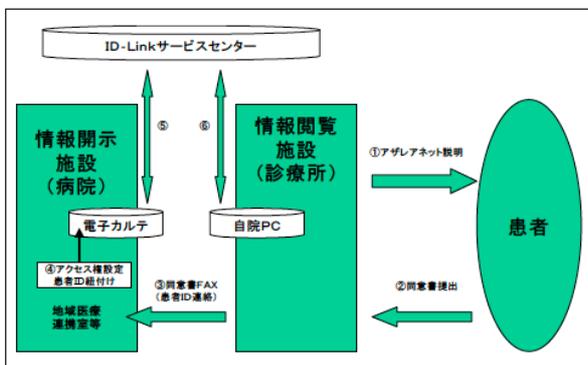
## B. 研究方法

福岡県筑後地区には、「アザレアネット」という愛称のインターネット回線を利用した、ID-Link という地域医療連携システムが存在する。

アザレアネットとは、インターネット回線を利用し、ID-Linkという地域医療連携システムを用いて、患者さんの同意のもと、その診療情報を地域の医療機関が共有することで、地域医療連携の強化を目指すネットワークのことです。



アザレアネットは、情報を開示する病院（情報開示施設）と情報を閲覧する診療所（情報閲覧施設）があり、それを繋ぐ ID-Link サービスセンターがある。主に情報閲覧施設にて患者に同意を得ると、情報閲覧施設は自院のパソコンから情報開示施設の患者情報を閲覧することができる。主に検査結果、投薬状況、カルテなどである（下図）。これらを用いて肝炎診療に応用できるかを考察した。



(倫理面への配慮)

主に医師同士のものであり、患者の診療に影響が直接及ぶものではないため、倫理面への問題はないと判断した。

## C. 研究結果

情報開示施設は 7 医療機関(うち 5 医療機関は同系列病院)であり、情報閲覧施設は、94 医療機関(個人病院 24 施設、診療所など 70 施設)であった(下図)。

| 情報開示施設                | 情報閲覧施設      |
|-----------------------|-------------|
| 久留米大学病院               | 個人病院など 24施設 |
| 久留米大学医療センター           | 診療所など 70施設  |
| 聖マリア病院                |             |
| 新古賀クリニック、古賀病院21、新古賀病院 |             |
| 嶋田病院                  |             |

情報閲覧施設のメリットとしては、データを直接閲覧したり、医師の記録まで閲覧できるので、専門医の考え方などを学ぶことができる。しかしながら、情報閲覧は、上記のように一方通行であり、情報閲覧施設に存在する診療情報は情報開示施設から閲覧することはできない。一方情報開示施設のメリットとしては、診療情報提供書など紙媒体などで準備する必要がなくなる。また情報開示施設同士であれば双方向で閲覧ができることなどである。

## D. 考察

福岡県筑後地区では、上記のようにアザレアネットという連携システムが構築されている。このシステムを肝炎診療にどう活用していくかを考察した。肝炎は慢性疾患が多く、長期に経過観察することが必要で

ある。たとえば診療所などでウイルス性慢性肝炎や自己免疫性肝疾患などが見つかった場合、専門医療機関へ紹介し、その後は専門医療機関で定期的に採血、画像診断などを行う。専門医療機関では診療所に診療情報提供書を書き、データなども印刷し一緒に添える。これは数十年前から現在も行われていることであり、医療界のICT化はかなり遅れている。このような例にアザレアネットを使うことを考えると、専門医療機関では、初診時や病態が安定するまでは紙媒体による返事などが必要と思われるが、その後は、診療所からカルテや採血を閲覧していただくことで、安定期は毎回の返事などが省力できると考えられる。さらに踏み込んで、ハードルは高いがあらかじめ医師同士で同意の上で初診時から一切の返事は不要で情報提供施設の情報を診療所の医師が閲覧することで完結することも可能である。さらに上記のように、診療所の医師がカルテを閲覧することで専門医の診断・治療などのポイントを学ぶことができるかもしれない。一方情報開示施設同士では、双方向でデータやカルテの閲覧が可能なので、高度の医療を要する例などでは、専門医同士で症例のコンサルトなどができると考えられる。

現在アザレアネットの管理者にすでにコンタクトを取り、具体的に利用状況やよく利用する医療機関などの情報を提供いただくことができた。今後はそのような医療機関とも協力しながら、このネットを用いた診療システムのさらなる活用、充実を図りたいと考えている。

## E. 結論

アザレアネットは、筑後地区でネットワークを形成しており、それを肝炎診療に用いることは効率的かつ充実を図る上で期待できるものと思われた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的所有権の出願・取得状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

特になし